

4 研究の内容

(1) 「目指す子どもの姿」を実現するための研究の重点と具体的な手立て

重点①学びをつなぎ思考の活性化を促す授業の工夫 ～「秋田の探究型授業」のプロセスを機能させながら～

- ・「深い理解」につながる単元展開・授業展開の構想（展開のコーディネート）
- ・思考の活性化を促す発問の工夫（生徒の意見のコーディネート）
- ・ねらいに応じた ICT の有効活用
- ・自力思考、ペアや小集団、全体での学び合い など多様な学習形態の活用
- ・「マイヒストリー」（振り返りカード）を用いた効果的なフィードバック（見取る、価値付ける）

重点②授業のコーディネートの土台づくり

- ・大曲中「学びの基本」「教える基本」の共通理解と確実な実践
- ・「大曲中学校区での学習を通して目指す姿」の共通理解と発達段階に応じた指導
- ・総合的な学習の時間（各学年の目標の明確化）、特別の教科道徳（計画的な実施）、特別活動（学級会での話合いの充実）の活性化

(2) 「目指す子どもの姿」の実現状況の把握と具体的な手立ての有効性についての検証

評価方法と判断の基準	評価時期	担当
教師の授業コーディネートが、ねらいの達成につながっていたかを生徒の振り返りから検証する。	授業後 単元・題材終了後	教科担任
研究授業や授業参観ツアー等で、生徒が目指す姿の具体になっているか検証する。	6～12月授業参観 観研究協議	全教職員 研究主任
学習アンケート(生徒)及び授業アンケート(教師)を実施し、成果と課題について協議する。（各項目で4段階評価の3以上であるか）	7月 12月	全教職員 研究部
県学習状況調査の各設問において通過率が基準を上回っているか検証する。	12月	研究部 教科部

(3) 改善の計画

<短期>

- ・日々の授業でコーディネート力の向上を図り、学び合いの活動における生徒の姿、振り返り等を基に指導の改善につなげる。
- ・授業研究会や「授業参観ツアー(全校)」、「ぶらり研(教科)」、アンケート等を通して明らかになった成果と課題を全職員で共通理解し、課題を焦点化することで授業改善に生かす。
- ・長期休業期間中に教科部会を行い、授業における共通実践事項に関わる取組の成果と課題を確認し、改善策を立てる。

<長期>

- ・県学習状況調査の結果を分析し、成果と課題を明らかにする。課題に対するフォローアップを行い、その達成状況を検証することで授業改善に生かす。
- ・年度末に研究推進委員会を実施し、各教科等の成果と課題を共有し、学校全体の次年度の研究の課題を明らかにする。